

追悼

一歩先に旅立った畏友へ ——亡き山田茂君を偲んで

会員 高野 長幸

2004（平成16）年8月29日、同期で東京弁護士会会長を務めた山田茂君が、脳内出血のため都内の病院で亡くなった。74歳であった。2～3年前体調思わしくなく、業務をやめ事務所を閉じたことは聞いていたが、訃報に接し永い間交わりのあった友を失って、寂しさを禁じ得ない。指名にしたがって、往時を偲びながら彼を語ることとする。

一言で云うならば、彼は私の敬愛する仲間の一人であったが、平凡な私に比べ、常に先を見越し一定の目標に向かって堅実な足取りの中にも、前進疾走する男で、私にとって畏友とも言うべき存在であった。

彼とは司法研修所〔9期〕だけでなく、大学研究室や弁護士会会派も同じで、多くの接点があったが、特に次のような印象や思い出が浮かぶ。

司法試験の受験勉強の時代〔1952～53（昭和27～28）年頃〕、彼は先見の明というべきか、「破産法」「刑

事政策」を選択科目に定めていた。彼が後年弁護士を開業、破産管財事件を数多く取り扱う事務所を営し、司法研修所の刑事弁護教官となった布石が既にその時点で打たれていたとうけとれる。

彼と共に1957（昭和32）年4月、弁護士登録、先輩弁護士の紹介で同じ会派に入会したのであるが、彼は逸早く会派の活動に精出し、先輩に見倣い、いわゆる「雑巾がけ」に汗を流していた。これは彼が学生時代弁論部に属し政治に関心があっただけでなく、将来の弁護士会長を目指していたのではないと思われる。

その後、全期会代表、弁護士会副会長、弁護士会のトップに達した彼の軌跡がこれを如実に示している。彼の会長選挙の際、会派幹事長を引き受け、労を共にしたが、彼が念願を果たし、美酒を味わい喜びの固い握手を交わした感激は忘れられない。一歩先に旅立った彼を「主よ、永遠の平安へと導き給え」と祈る。



故 山田茂会員
2004年8月29日逝去・74歳
1990年度東京弁護士会会長